



**シラバス参照**

タイトル「**2016年度 観光学部シラバス**」、フォルダ「**2016年度 観光学部シラバス**」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	観光行動論		
担当教員	<a href="#">出口 竜也</a>		
対象学年	1年	クラス	T1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位区分	選必
授業形態		単位数	2
準備事項			
備考			
科目名 (英語表記)	Tourist Behavior		
授業の概要・ねらい	<p>観光者の行動について考察する。古今東西を問わず、多くの人々がさまざまな目的を持って居住地を離れ、観光してきた。この授業では、ゲストである観光者の意思決定プロセスを内部要因（知覚、態度、価値観、動機付けなど）と外部要因（訪問地の社会、文化、環境など）から人類学的視点で分析すると同時に、ホストである観光地や観光関連産業の行動を経営学的視点から分析することで、観光者の心理や行動だけではなく、観光者にとって魅力ある観光地とはどのようなものか、観光地が観光者を集客するために念頭に置かなければならないことは何かを理解するための基礎的な知識を習得する。また、観光行動における新たな動向として近年注目を集めつつあるコンテンツツーリズムについては当該分野で活躍されている方をゲスト講師として招へいし、講義をお願いする予定である。</p>		
授業計画	回	内容	
	1	イントロダクションー授業の目的と進め方ー	
	2	観光行動とは	
	3	観光行動を誘発する心理的要因ーヒトはなぜ、旅をするのか？ー	
	4	観光の類型化（1）ー観光をどのようにとらえ、考えるかー	
	5	観光の類型化（2）ー多様化、二極化、細分化する観光行動ー	
	6	ケーススタディ（1）ー歴史観光ー	
	7	ケーススタディ（2）ー保養観光ー	
	8	ケーススタディ（3）ー施設観光ー	
	9	ケーススタディ（4）ー祭り観光ー	
	10	ケーススタディ（5）ー産業観光ー	
	11	ケーススタディ（6）ーコンテンツ・ツーリズムー（ゲスト講師を招へいする予定）	
	12	ケーススタディ（7）ー物語観光ー	
	13	ケーススタディ（8）ー視察観光ー	
	14	ケーススタディ（9）ー体験型観光ー	
	15	まとめ	
到達目標	観光の現状と新たな動向を理解するとともに、観光者の行動を心理学や行動科学の手法によって分析・理解する能力を養成する。		
成績評価の方法	期末試験（70%）、中間試験もしくはレポート（30%）に出席状況等を加味して評価する予定です。また、受講者数にもよりますが、授業の際に発言を求める機会を持つことを検討しています。その場合は発言に対して加点します。		

教科書	特に使用しません。資料等を配布し、講義する予定です。
参考書・参考文献	授業時間を通じて、数冊程度紹介する予定です。
履修上の注意・メッセージ	授業をしっかりと聞き、しっかりとノートをとるだけでなく、自らいろいろと調べた上で得られた知見をもとにレポートや試験などの課題に取り組んでください。また、言うまでもありませんが、授業中の迷惑行為は厳禁です。
履修する上で必要な事項	
受講を推奨する関連科目	観光経営関連の科目
授業時間外学習についての指示	観光に関する報道に関心をもって接すること。
その他連絡事項	

